

第25回 定例評議員会議事録

財団法人 神奈川県スキー連盟

1. 日 時： 平成23年7月30日（土）13：30～15：27
2. 場 所： 神奈川県社会福祉会館 4階第1、2研修室（横浜市神奈川区沢渡4-2）
3. 評議員出席状況： 評議員現在数： 50名
出席評議員数： 30名
書面票決評議員数： 16名
欠席評議員数： 4名 （出欠表添付）
4. 出席理事：（会長）河野 太郎
（副会長）佐藤 嘉彦、山田 力、片 忠夫
（専務理事）上田 英之
（常務理事）清水 忠、徳本 進、木村 徳善、吉岡 去私
（理事）金子 理人、国島みどり、高柴 一彦、青木 文明、
本田 衛義、岡田 良平、小池 光、佐々木 生道、
森本 玉水、中村 浩人、黒川 正孝、伊藤 敏光、
和田 幸一、吉野 大成
欠席理事：（理事）大澤 康之
5. 出席監事： 井上 敏郎、内海 雄三
6. 出席顧問・参与：（顧問）本田 安男 （参与）小島 佑嘉 （顧問弁護士）柳沢 尚武
7. 議長選出： 藤田まゆみ評議員（川崎スキー協会）を指名
8. 議事録署名人選出：米田 裕信評議員（横浜スキー協会）、田中 義孝評議員（横浜スキー協会）を選出
9. 書記： 青木 文明理事、守谷 紀幸広報委員を指名
10. 配付資料
① 第25回評議員会資料（事前配付）
② 第25回評議員会資料正誤表（当日配付）
③ 新公益法人移行マスタープラン（当日配付）

11. 挨拶

河野会長から、暑い中ご出席いただきありがとうございます。このところ毎年3桁の減少を続けていた会員登録者数が、下げ幅を縮めただけでなく、小田原、平塚、高体連等は増加に転じています。スキー界全体のベクトルが上向きになることを願います。3月11日の大震災に罹災された皆様の1日も早い復興を祈っておりますが、連盟の財政面等へも大きな影響があったことは後ほど報告があると思います。震災の被災地の復興の支えになるようにしっかりとした活動を行ってまいりたい。また、公益法人化の作業も佳境に入っておりますので、忌憚のないご議論をお願いいたしますとの挨拶があった。

12. 議 事

1) 報告事項

(1) 一般経過報告

上田 英之専務理事から、新公益法人化の申請を今年度中行うため、寄付行為から定款への変更の議案を審議する臨時評議員会を開催する必要があります。次に、元気に繋がる行事の開催を引き続き行ってまいりたいと考えております。会員減少問題に関しては、昨年度二桁の減少にとどまったことで、神奈川県民900万人への感動の伝道者としての使命を担うため、更なる会員の獲得を検討してまいります。加盟クラブ259クラブがそれぞれ2人ずつ会員増強

を図れば、毎年500人の会員増加が見込めます。安全なスノースポーツの水先案内人として指導員、認定指導員の役割が重要視されています。スノースポーツ愛好者は100万人ですが、潜在的な愛好者は200万人いると言われており、顧客を神奈川県民と明確に定め、事業を展開していきたいとの報告があった。

(2) SAJ報告

山田 隆SAJ理事から、先般お知らせをした認定指導員の呼称の変更問題について、教育本部長に確認をしたところ、呼称の変更は行わないこととなった。ただし、認定指導員資格をもって準指導員資格受験の資格とすることはせず、1級は別に取得する必要があるとのことになった。本県では既にそのような対応をしているので問題はない。

スポンサー問題等でSAJの各本部の予算が3割ダウンした。新公益法人化についても、移行の方針は決定しているが、まだ全く手付かずの状態にある。競技本部4億5千万円の予算あるが、女子サッカーのような感動を与える結果を期待しているが、競技選手のもとに届く予算は6、7%でそのほとんどが会議や委員会の経費となっている。理事会を機能すれば、もっと選手のために予算が使えるように改革したいと思うが、まだ正常化まで時間がかかる状況であるとの報告があった。

2) 審議事項

(1) 第1号議案 平成22年度事業報告及び決算報告

① 平成22年度事業報告について

上田 英行専務理事から、平成22年度事業報告について、評議員会資料7ページのとおり提案があった。

② 平成22年度総務本部報告について

徳本 進総務本部長から、平成22年度総務本部報告について、評議員会資料39ページのとおり提案があった。

③ 平成22年度教育本部報告について

木村 徳善教育本部長から、平成22年度教育本部報告について、評議員会資料75ページのとおり提案があった。

④ 平成22年度競技本部報告について

吉岡 去私競技本部長から、平成22年度競技本部報告について、評議員会資料115ページのとおり提案があった。

⑤ 平成22年度決算報告について

徳本総務本部長及び金子 理人理事から、平成22年度決算報告について、評議員会資料129ページから150ページのとおり報告があった。

(2) 第2号議案 平成22年度監査報告

井上 敏郎監事から、平成22年度監査報告について、評議員会資料152ページのとおり報告があり、以下のとおり所見が述べられた。

① 一般会計の収支決算書、貸借対照表、財産目録、預貯金通帳、残高証明書は、帳簿の記載と合致し、適正に処理していることを認めます。

② 監査はプレ監査6回、現地監査3回、本監査1回を実施いたしました。なお、7月2日に松本公認会計士と事務打ち合わせを行いました。

③ 東日本大震災による各行事等の中止に伴い、参加者等の返金業務が遅滞なく行われました。

④ 単年度赤字決算であるが、来年度執行に当たっては適切に対処すること。今後とも改革を進めながら各事業を見直し、更なる財政の健全化に努められたい。

⑤ 各事業の運営及び会計処理は適正に執行されたが、一部事業会計処理に遅れが見受けられました。各事業終了後、1か月以内に事業報告を提出されたい。

(3) 第3号議案 規約・規程の改訂

徳本総務本部長から、役員選出規程、運営規則の改訂について、評議員会資料54ページから55ページ及び56ページから58ページのとおり提案があった。また、賛助会員規程、指導員資格停止解除規程の制定、協賛会員規程、上部団体派遣役員推薦規程、級別・ジュニアテスト開催規程の改訂について、評議員会資料48ページから53ページ及び59ページから62ページのとおり報告があった。

3) 質疑応答

- ① 腰高 豊評議員（横浜）から、震災の影響もあり連盟全体での赤字の理由の検証及び各事業単位での赤字の検証は行っているか、行っていればその内容を教授願いたいとの質問があり、上田専務理事から、全体で127万円の赤字を計上したが、主な要因は震災による事業中止に伴う返金等である。個別には、級別テスト申込金、チャレンジカップ中止の申込金の返金で、市町村対抗大会、戸倉3大会については参加者が減少したが安全確保のため役員を例年通りとしたことで若干の赤字となっている。また、協賛金が社会情勢を反映して減少が大きいとの答弁がされた。
- ② 八尾 勉評議員（川崎）から、貸借対照表で預り金が前年度と比べ大幅に増えているが、理由は何かとの質問があり、金子理事から、震災の義援金を預り金として計上したもので、100万円は既に支払ったが、それ以降の累積が預り金となっているとの答弁がされた。
- ③ 草薨 純也評議員（横須賀）から、SAJの役員経費の報告もあったが、SAKの諸経費の支出状況について、他県連の状況等も調査し、適正なものか比較をするなど、新しい切り口での監査をお願いしたいとの意見があった。
- ④ 相澤 寛評議員（横浜）から、昨年の当協会からの要望事項について、18ページの理事会議事録で触れられているが、それ以降の審議経過についてどうなっているのか教えてほしいとの質問があり、上田専務理事から、養成講習会の市協への委託はSAJの方針として難しいとの感触を得ているので、連盟として継続的に検討中であるとの答弁がされた。
- ⑤ 奥山 覚評議員（横浜）から、養成講習会が従来6回開催されていたものが、次年度では5回となっているがその理由は何かとの質問があり、木村教育本部長から、湯沢のエキスパート講習会を充実させるために特化したためとの答弁がされた。
- ⑥ 腰高 豊評議員（横浜）から、養成講習会は22年度では実績が報告されてニーズがあるにもかかわらず、教育の部会の中で事業を削除されたのかとの質問があり、木村本部長から、そういうことになるとの答弁がされた。
- ⑦ 森谷 博幸評議員（厚木）から、県総合体育大会が休止となり、市町村対抗大会として開催されたが、県に対して県総合体育大会の復活について継続的に働きかけを行っていただきたいとの要望があり、河野会長から、大会の休止についてはその団体の事情もあると思いますが、国はスポーツ基本法で国体の継続を決定しました。前例踏襲での開催継続には問題点もあると言えますが、スポーツ振興に真に役に立つ大会であるならば、今後県に予算を出してもらおう方向で話をしていきたいと考えますとの答弁がされた。

以上の提案に基づき、議長から第1号議案、第2号議案及び第3号議案について、一括して承認を得たい旨諮ったところ賛成多数で承認された。

4) その他

- ①新公益法人移行マスタープランについて
徳本総務本部長から、別添資料のとおり説明があり、質疑はなく了承された。

以上を以って、本日の議事を終了し、議長解任後、副会長より閉会を宣した。

この議事録が正確であることを証明するため、議事録署名人、下記に署名する。

平成23年8月12日

議 長

印

議事録署名人

印

議事録署名人

印